

野外活動施設としての新たな試み



公益財団法人日本アウトワード・バウンド協会
尼崎市立美方高原自然の家 「とちのき村」

尼崎市立美方高原自然の家について



2022年度
尼崎市内の市立小学校全41校
自然学校4泊5日の利用開始



新たな試み

1 ISO9001自然学校支援の導入



2 IT機器を活用した野外活動の提供



ISO9001 自然学校支援について（認証2021年3月）



図 1

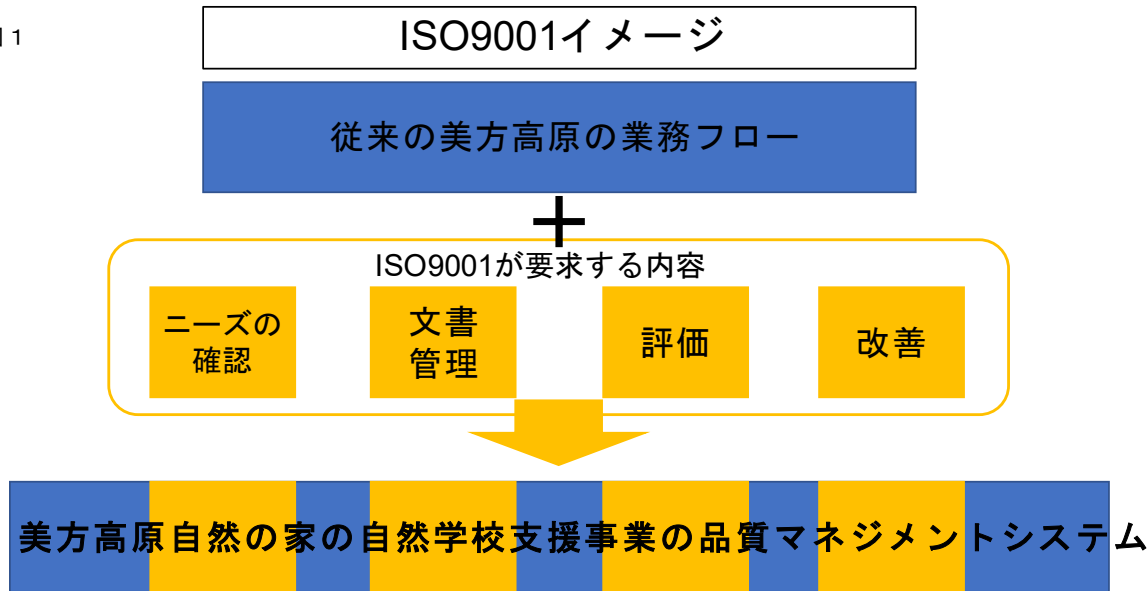


図 2

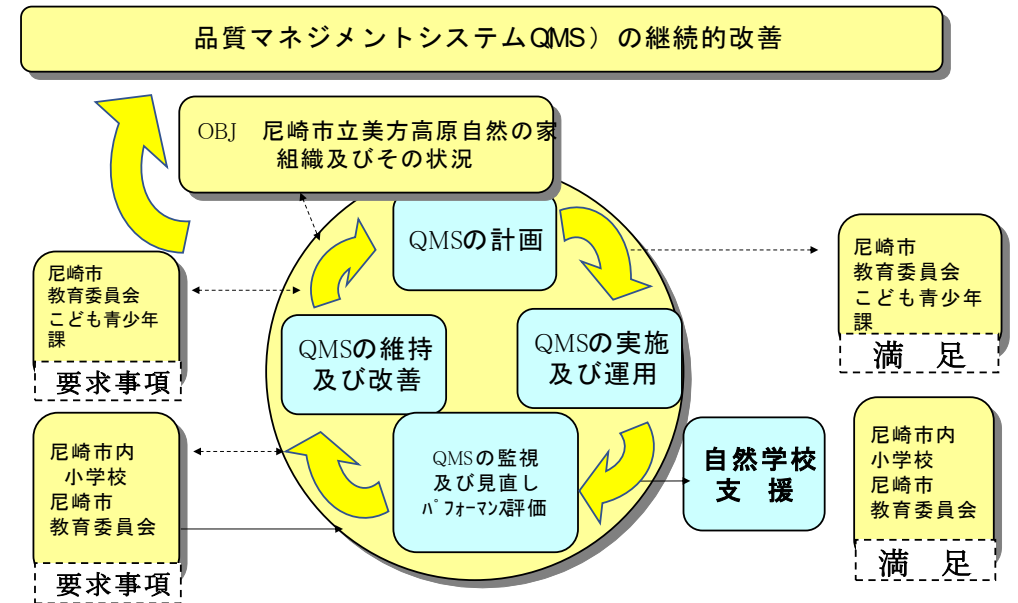


図 3

手順の統一の誤解

○適応業務の範囲は組織側で決定することが出来ます。自然学校支援事業を適応範囲としていますが、**各プログラムの目的や運営方法まで統一化されるわけではありません。**

沢登りを実施する場合

- 必ずこの場所を使う
- 目的は○○とする
- 指導は必ず○○を読む
- 時間は○○時間で実施する

○プログラムの統一化



- 目的を確認する
- 運営方法を確認する
- 安全面のインストラクション（最低限統一されたもの）を使う
- 備品を確認する

○プロセスの統一化



【運用と成果】

（高い満足度） アンケート結果による支援の満足度が95%以上

（プロセスの明確化・継続的改善の確認）

- ・ 明確な確認事項等（誰がいつ確認した等）が文書化等で整備。
- ・ 経営者へ運営状況やニーズの報告し、レビューを受けて次年度の品質目標を定め、支援改善を行う流れが構築できた。

【課題】

自然の家と学校との確認書や明文化された資料の管理など、指導現場以外での**業務量をいかに効率化**するか。

【今後に向けて】

コロナ禍などの変化や小学校等のニーズをとらえ、**継続的改善により顧客満足度を高める。**

IT機器を活用した野外活動の提供

共同開発・研究事業

関西学院大学 甲斐教授
情報科学芸術大学院大学等

【背景】

DX時代・GIGAスクール促進・society5.0社会

【目的】

指導者＋IT機器⇒体験活動が豊かになることを目指す。

【実践事例】

ARネイチャーラリー・ARアドベンチャーラリーを開発

【会場：自然の家】

トムソーヤキャンプ（小1～小3） 25人

冒険キャンプ（小4～中3） 16人

美方高原星空フェス（家族グループ） 4組

【会場：尼崎市内の公園】

尼崎市内の小学校（5年生） 3校189人



マップ（尼崎の公園用）

※ポイント付近に動物名が記載されている



場面4



ここでは、どんな音が聞こえると思いますか？
ここではどんな音を聞きたいですか？話し合しましょう！



ふりかえり

身近な場所での今後について、考えてみたり、
発表する機会を提供する。



OUTWARD BOUND
JAPAN

【成果：参加者の声として】

- ・「使い方が簡単だったので、すごく楽しかった。」
「またやってみたい」など、肯定的にとらえられていた。
- ・ 2021年度日本野外教育学会で先進事例として発表し、他県の研究者からも興味や関心をもってもらい、手法について情報共有を求められた。

【今後に向けて展開】

- ・ 活動時間に合わせて児童への課題数や内容の変更など可変的対応。
- ・ 各ポイントでの課題を教科教育とのつながりなど。
- ・ 2022年度は、アンケート調査結果を含め研究発表予定。

ご静聴いただき、ありがとうございました。

